

### 3.(1) つまった音の指導(39時間目?)

<学習のめあて>

「ねこ」の「ね」と「ねっこ」の「ねっ」とをくらべて、開音節と促音節とのちがいを感覚的にとらえ、「ひらいた音」と「つまった音」とがあることを知る。そして、「つまった音」は「ひらいた音」をあらわす文字にちいさい「っ」をくわえてかきあらかわすことを知る。

<授業の記録>

T (ねこの絵とねっこの絵とを提示して)

この動物は何ですか。

・ねこ。

T では、これ何ですか。

・ねっこ。

T みんないってみましょう。

・ねこ。ねっこ。

T 「ねこ」と「ねっこ」とをくらべると、音が同じところと、ちょっとちがうところがあるよ。よくきいていてね。(ゆっくりと)ねこ。ねっこ。おなじところはなに?

・どちらも「ね」の音と「こ」の音がある。

・いきが二回出る。

T ふたつの音の単語だね。では、ちょっとちがうところは、どんなところ?

・ねっこのほうは「ねっ」というとき、いきがとまるかんじがします。

T そうだね。(まちの絵とまっちの絵を提示して)これは何ですか。

・まち。

T では、これは。

・まっち。

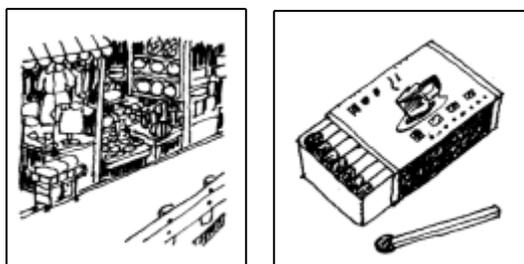
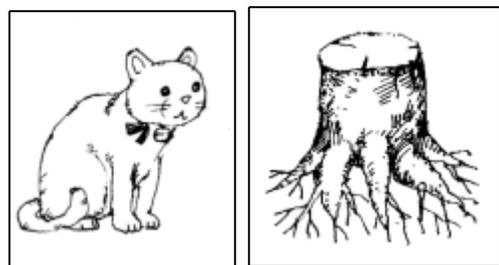
T どこがちがうかな。

・「ま」と「まっ」

T そうですね。「ねっこ」の「ねっ」や「まっち」の「まっ」のように、いきがとまるかんじがする音のことを「つまった音」といいます。

・つまった音

T 「ねこ」の「ね」や「まち」の「ま」のように、いきがとまるかんじがしない音



は「ひらいた音」といいます。

・ひらいた音

T 「ねこ」と「ねっこ」を音のしるしでかいてみましょう。「ねこ」はくろまるがふたつだね。「ねっこ」の「ねっ」はつまった音だから、こういうしるし(´)でかきます。

(絵の下にしるしをかきいれる)

T 「ねこ」も「ねっこ」も、どちらもふたつの音からできています。

T 「ねこ」の「ね」は「ね」とかくね。そして、「こ」をかきます。(音のしるしの下に文字をかく)

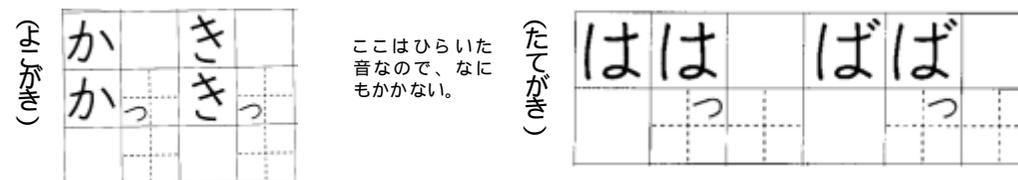
T では、「ねっこ」の「ねっ」という音をどうかけばいいかという、「ね」のつぎにちいさい「っ」をかきます。

・「ねこ」のほうは二文字だけど、「ねっこ」のほうは三文字だ。

T そうですね。つまった音の「ねっ」は「ね」の音にちいさい「っ」の字をつけてかくので、「ねっこ」のほうは音は2つだけど三文字になるね。「っ」はいきをとめていうつまった音のしるしなんだよ。

このあと、ひらいた音とつまった音のたんごを、音をくらべながらいくつか発音させる。(例 「まくら」「まっくら」「はか」「はっか」など)

そして、書き方の練習をする。



促音節は母音のあと、あるいは子音+母音のあとにあり、無声音のさまたげ音子音(パ行、タ行、カ行、サ行、ハ行)のまえのみにくることができる。

促音は次の音を発音するまえに、声(息)をとめるか声道をせばめるかして、一拍相当の時間そのままにしてから、次の音を発音することによってつくられる。声(息)をとめるあるいはせばめるしかたが、次の子音(パ行、タ行、カ行、サ行、ハ行)の口がまえになっている。

ローマ字で、つまった音を nekkō と k をふたつ書くのは、ひとつめの k で声(息)をとめ(このとき k の口がまえになっている)、つぎの kō を発音するからである。